

2016年2月4日

(ご参考)

**マツダ株式会社**  
**2016年3月期 第3四半期決算説明会**  
(スピーチ要旨)

**執行役員 財務担当 財務本部長**  
**藤本 哲也**

### **1. 総括**

第3四半期累計実績の総括です。

グローバル販売台数は対前年14%増の114万5千台と、第3四半期累計として過去最高の販売実績となりました。これは、新型CX-3および新型ロードスターのグローバルでの台数貢献と、Mazda6、CX-5の商品改良モデルが好調な販売を継続していることによるものです。

売上高は2兆5,478億円、営業利益は1,734億円、当期純利益は1,235億円となりました。

SKYACTIV商品・技術・魂動デザインは国内外において高い評価を獲得しています。

通期見通しの総括です。

グローバル販売、利益見通しともに11月公表から変更していません。

足元の主要国での経済環境変化に伴う自動車需要への影響や、為替・原油など金融市場の変動を慎重に見極めていきます。

主要施策の進捗では、SKYACTIVモデルのラインナップ拡充や継続的進化が計画どおりに進捗し、SKYACTIV比率は通期で85%以上を達成する見通しです。

生産面では、クロスオーバー系車種の需要拡大に対応するため、昨年秋のCX-3のAAT生産に加え、来期中に防府工場でも生産を開始する予定です。

また、グローバルアライアンスおよび財務基盤の強化も順調に進捗しています。

このように、構造改革ステージ2での質的成長とブランド価値向上に向けて、主要施策を着実に推進していきます。

### **2. 2016年3月期 第3四半期累計実績**

連結売上高は対前年16%増の2兆5,478億円、営業利益は1,734億円と、対前年で214億円の改善となりました。経常利益は1,720億円、税引前利益は1,665億円、当期純利益は1,235億円です。

フリーキャッシュフローは1,106億円とキャッシュフロー創出力も着実に向上しています。

為替レートは平均で1ドル122円、1ユーロ134円と、前年に比べ、ドルで15円の円安、ユーロで6円の円高となりました。

グローバル販売台数は対前年14%増の114万5千台と、第3四半期累計として過去最高の販売実績です。グローバルに導入展開が進む新型CX-3、新型MX-5/ロードスターが台数貢献したことに加え、Mazda6/アテンザ、CX-5の商品改良モデルも好調な販売となりました。地域別でも、すべての地域で、前年を上回る販売実績となりました。

各マーケットの状況について説明します。

日本では、対前年15%増の16万3千台の販売となりました。

需要が前年を下回る中で、登録車シェアは対前年で1.2ポイント増加の6.1%と着実に販売を伸ばしています。また、新型ロードスターは(2015~2016)「日本カー・オブ・ザ・イヤー」や「日本自動車殿堂カーオブザイヤー」を受賞するなど高い評価を獲得しています。

北米では、対前年8%増の34万5千台の販売となりました。SKYACTIVモデルへの切替えが大きく進捗しており、販売成長を加速しています。

そのうち米国は、対前年6%増の24万1千台で、商品改良モデルの販売が好調なCX-5やMazda6、販売の本格化した新型MX-5と新型CX-3が成長を牽引しました。厳しい販売競争の中、正価販売方針を継続しています。

メキシコでは、Mazda3およびCX-5の販売が好調で、対前年37%増の4万5千台となりました。

欧州では、対前年9%増の18万3千台で、Mazda2と新型CX-3が販売を牽引しました。

ロシアを除く欧州では、需要の増加を大幅に上回り、対前年27%増の16万3千台の販売拡大となりました。そのうちドイツでは対前年17%増の4万4千台、英国では対前年22%増の3万1千台と、堅調に販売を伸ばしています。

中国では、対前年13%増の17万7千台の販売となりました。

景気減速により需要が低迷する中、11か月連続で前年を上回る販売実績です。購置税の減税効果によりMazda3の販売が好調です。CX-5の商品改良モデルやMazda6も販売に貢献しています。

その他市場では、対前年27%増の27万7千台の販売となりました。

オーストラリアでは、対前年18%増の8万6千台で、シェアは9.8%です。新型CX-3、CX-5はいずれもセグメント別での販売台数1位を獲得し、新型MX-5の販売も好調です。ASEANでは、タイで需要が減少している中でも対前年19%増加しており、ベトナムでは対前年109%の増加となりました。

連結営業利益の前年に対する増加額214億円の主な要因について説明します。

台数・構成では、グローバルでの販売拡大により、484億円の改善となりました。

為替は、USDドルで132億円改善しましたが、ユーロで89億円、その他通貨で318億円悪化し、合計で275億円の悪化です。

変動コスト領域では、原材料価格の値下げやコスト改善の進捗により268億円の改善です。

販売費用は、CX-3など新型車のローンチに伴う広告宣伝費の増加により61億円の増加となりました。

その他固定費領域では、メキシコやタイの新工場での減価償却費の増加等により、202億円の費用増となりました。

### **3. 2016年3月期 通期見通し**

グローバルでの経済環境変化に伴う自動車需要への影響を慎重に見極める必要があることから、通期見通しは151万5千台から変更していません。

主要国での販売競争の激化や新興国でのビジネス環境が悪化する中、正価販売方針により規律を保った販売価格を維持しつつ、対前年8%増(118千台増)の販売拡大を目指します。

財務指標についても、足元で変化の大きい為替相場の影響を精査しているため変更していません。

売上高は3兆3,700億円、営業利益は2,300億円、当期純利益は1,550億円です。

通期での営業利益変動も11月公表から変更ありません。

### **4. 主要施策の進捗状況**

新型CX-3、新型MX-5/ロードスターをグローバルに展開、また、Mazda6/アテンザ、CX-5に続いて、Mazda2/デミオ、新型CX-3に商品改良を実施し商品力を強化しました。

SKYACTIVモデルの拡充、継続的進化は順調に進捗しており、すべてのSKYACTIVモデルが前年を上回る販売で、SKYACTIV搭載比率は85%以上を達成する見通しです。

また、日本での名誉ある受賞をはじめ、米国環境保護庁(EPA)燃費トレンドレポートの「企業平均燃費値」で3年連続総合1位を獲得するなどSKYACTIV商品・技術・魂動デザインにおいても国内外で高い評価を獲得しました。

グローバル販売、ネットワーク強化においては、商品改良モデルの投入により、ネットレベニューの改善、インセンティブの抑制など正価販売方針を継続しています。ブランドコミュニケーション、カスタマーケア強化策の展開などリテンション率向上に向けた取り組みを加速していきます。

グローバル生産では、国内工場の生産工程の改善を強化し、生産効率を最大化します。

また、本社工場では、新型CX-9の生産を開始します。さらに、クロスオーバー系車種の需要拡大に対応するため、昨年秋のCX-3のAAT生産に加え、来期中に防府工場でも生産を開始する予定です。国内外の主要拠点の稼働を向上し、グローバルでの販売拡大をサポートしていきます。

グローバルアライアンスも順調に進捗しています。メキシコ工場では、トヨタ社向けの小型車の生産・供給を開始しました。また、本社工場では、フィアット・クライスラー社向けスポーツカーの生産を開始する予定です。

財務基盤の強化においては、フリーキャッシュフローが大幅に改善基調にあります。これまでの技術開発・生産投資の回収期としてキャッシュフロー創出力が向上しています。

構造改革プランの主要施策は着実に成果が出ています。2016年4月から始まるステージ2に向けて商品・販売・生産・財務の各領域でビジネス効率を高めるなど質的成長を図り、本格的なブランド価値向上に向けて取り組みを加速していきます。

以上